

2021 年度
事業報告書



学校法人草苑学園

1. 法人の概要

1.1 基本情報

名称	学校法人草苑学園
所在地	171-0031 東京都豊島区目白 3-17-11
	電話 03-3953-4016
	FAX 03-3952-4387
	ホームページ www.soen.ac.jp

1.2 建学の精神

スクールモットー

信仰・希望・愛
祈り

本学園は、キリスト教の精神を教育の理念に掲げ、1954年にキリスト教保育者たちの「キリスト教に基づく教育で保育者養成を」という願いから設立された。

「キリスト教の精神」とは、人間は一人ひとりが神によって作られた尊い存在であり、それゆえにお互いを尊重し、常に隣人に対して愛を持って行動することに具体化される。幼い者、弱い者のために働く保育者が目指すべき精神そのものと言える。

キリスト教に基づく教育とは、互いを尊重し、相手によらず目の前にいる人に思いやりと援助の気持ちをもって行動できる人格形成を目指すものである。

これを具体化するために、草苑保育専門学校では創立60周年を機にスクールモットーを、「信仰・希望・愛／祈り(祈りによって支えられた 信ずること、希望を持つこと、愛すること)」と定めた。

1.3 沿革

1950(昭和25)年	八景坂幼稚園の設置認可
1954(昭和29)年	日本キリスト教団原宿教会内に「原宿高等保育学校」(夜間)創立、文部大臣より幼稚園教諭養成機関(指導校・青山学院大学)として指定を受け、保育者養成に当たる(5月13日)。初代校長に佐藤初重先生が就任
1956(昭和31)年	現在地の東京都豊島区目白(旧成蹊学園跡地)に校地を得て、「原宿高等保育学校」及び「八景坂幼稚園」を移転落成
1957(昭和32)年	「学校法人草苑学園」の設立認可(2月11日)。「草苑高等保育学校」及び「草苑幼稚園」と名称変更
1978(昭和53)年	高等保育学校新校舎(現本校舎)竣工
1981(昭和56)年	「草苑高等保育学校」は、学校教育法の改正により専修学校として認可され「草苑保育専門学校」と改称
1984(昭和59)年	「草苑保育専門学校」(昼間部)認可開設
1985(昭和60)年	「草苑保育専門学校」は、厚生大臣より保母資格授与の指定を受け、保母養成の専修学校となる
2005(平成17)年	「草苑保育専門学校」(夜間部)廃止
2010(平成22)年	幼稚園舎を耐震改築
2010(平成22)年	専門学校を男女共学化。10月生入学を新設。東京都の保育士職業訓練委託を受け、保育士養成科定員40名を受け入れ開始

2011(平成 23)年	専門学校第二校舎新築落成
2013(平成 25)年	専門学校本校舎耐震補強工事完成
2014(平成 26)年	専門学校創立 60 周年(スクールモットー制定)
2015(平成 27)年	一般社団法人キリスト教学校教育同盟に加入
2016(平成 28)年	幼稚園隣接地を取得
2017(平成 29)年	専門学校に学生寮を開寮
2018(平成 30)年	専門学校が職業実践専門課程の認定を取得(文部科学省)
2021(令和 3)年	学校法人青山学院との間で、教育連携協定を締結

1.4 設置する学校

設置する学校	学校設置認可
草苑幼稚園	1950(昭和 25)年 11 月 4 日(八景坂幼稚園として)
草苑保育専門学校	1954(昭和 29)年 5 月 13 日(原宿高等保育学校として)

1.4.1 園児・学生

2021 年 5 月 1 日現在

学校	収容定員数	在籍園児・学生数
草苑幼稚園	80	77
草苑保育専門学校	300	268

1.5 理事・監事

定員 理事 9 人 監事 2 人

職名	氏名	期間	常勤/非常勤	備考
理事長	柳内光子	2003.4.16～	非常勤	山一興産(株)社長
理事	栢原 英郎	2012.11.19～	常勤	草苑保育専門学校長
理事	矢嶋 篤子	2014.4.1～	常勤	草苑幼稚園長
理事	太田 満喜	2007.4.17～	常勤	草苑学園長
理事	柳内 えり	2014.4.22～	常勤	草苑学園総合企画室長
理事	上村 清	2018.6.1～	非常勤	(株)内山アドバンス会長
理事	福島 啓充	2009.3.18～	非常勤	弁護士
理事	池坊 保子	2016.8.12～	非常勤	特定非営利活動法人萌木理事長
理事	山本 与志春	2016.8.12～	非常勤	青山学院長
監事	矢島 義幸	2014.7.1～	非常勤	税理士
監事	沼尾 康孝	2011.7.13～ 2021.5.24	非常勤	元山一産協(株)副社長
監事	江積 恵	2021.5.25～	非常勤	元青山学院監査室長

法人は、次の非業務執行理事等との間で、上限額を 10 万円とする責任限定契約を締結している：
上村清理事、福島啓充理事、池坊保子理事、山本与志春理事、矢島義幸監事、江積恵監事

1.6 評議員

定員 19人

氏名	期間	備考
矢嶋 篤子	2009.3.8～	草苑幼稚園長
栢原 英郎	2012.11.19～	草苑保育専門学校長
太田 満喜	2007.4.17～	草苑学園長
柳内 えり	2014.4.22～	草苑学園総合企画室長
遠藤 撰	2015.6.5～	草苑幼稚園職員
大宮 洋子	2016.3.15～	草苑保育専門学校卒業生
内田 明香	2021.3.24～	草苑保育専門学校卒業生
石川 正美	2021.3.24～	草苑幼稚園卒園生
福島 啓充	2009.3.18～	弁護士
池坊 保子	2016.8.12～	特定非営利活動法人萌木理事長
山本 与志春	2016.8.2～	青山学院長
柳内 光子	2003.4.16～	山一興産(株)社長
上村 清	2018.6.1～	(株)内山アドバンス会長
古屋 四朗	2018.6.1～	草苑学園総務・財務部長
山田 明男	2018.6.1～	草苑保育専門学校入試広報部長
竹原 有基	2021.3.24～	草苑保育専門学校教務部長
木村 誠甫	2018.6.1～	若葉台集会所牧師
阿江 美知代	2018.6.1～	浄風幼稚園主任
武田 剛	2018.6.1～	(株)内山アドバンス

1.7 教職員

2021年5月1日現在

区分	教員区分	人数	職員区分	人数	教員・職員	人数
幼稚園	専任	7	専任	0	専任	7
	非常勤	6	非常勤	1	非常勤	7
	計	13	計	1	計	14
専門学校	専任	13	専任	12	専任	25
	非常勤	34	非常勤	4	非常勤	38
	計	47	計	16	計	63

1.8 施設等

学園が所有する校地・校舎

2021年5月1日現在

所在地	東京都豊島区目白三丁目17番11号			
土地	4120 m ²			
建物	幼稚園	園舎	1階建	375 m ²
	専門学校	第一校舎	一部4階建	2415 m ²
		第二校舎	2階建	345 m ²
		学生寮	2階建	267 m ²

2. 事業の概要

2.1 草苑保育専門学校

草苑保育専門学校の2021年度は、20年度に引き続いて「コロナ禍」の中で「保育の教育は対面でなければ十分に行えない」という原則を貫きながら、安全な教育活動を続けるかという課題との取り組みの連続であった。

内容は「2.2 コロナ感染症への対応」に述べたとおりであるが、今日まで大規模な感染が起これずにいるのは、主の恵みのうちに、

- ①教職員の協力
- ②学生の努力
- ③実習を引き受けて頂いた園・施設の理解と協力

などがあったからであると考え、感謝している。

2.1.1 講義の状況

基本的にはコロナ禍以前の通常の授業体制で臨んだが、国・都の感染防止政策を受けて一部を変更しつつ学校活動を進めた。

【修養会(保育グループワーク)】

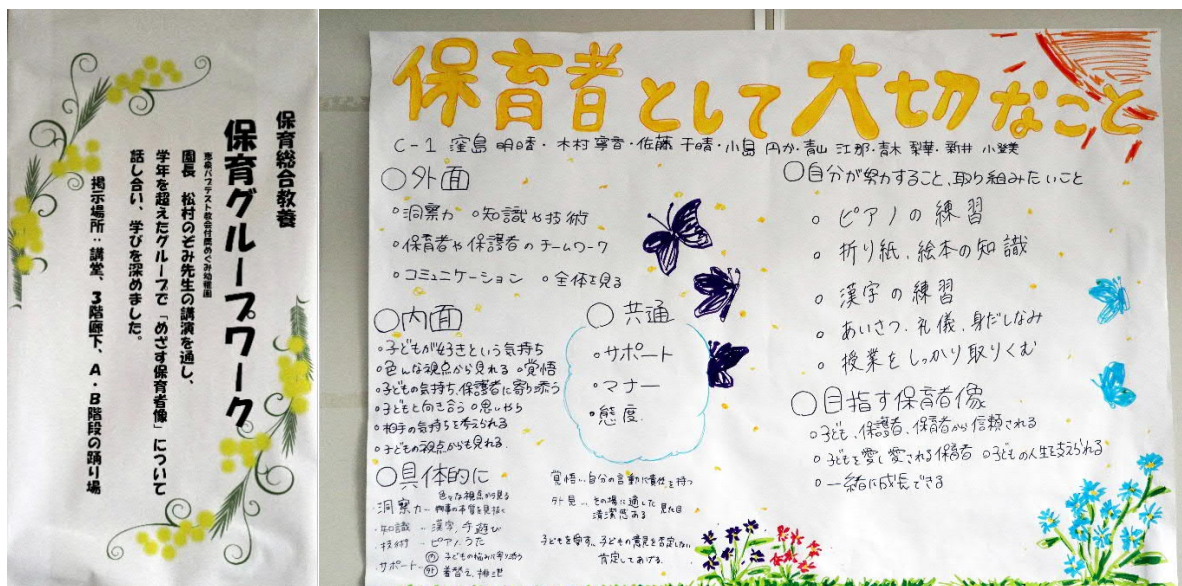
例年5月末に、キャンパスを離れて、「理想の保育者像」「子供への愛」を交互のテーマとして2泊3日の修養会を実施してきたが、4月から突然様々な制約が課せられた2020年度は中止せざるを得なかった。

しかし、修養会を中止したことによって、「新1年生の意識の確認」「上級生との交わり」「運動会などを通じたクラスの結束」などに大きな影響が残った。特に大きかったのが、新入生の専門教育を受ける立場であるという意識、高校生からの意識の切り替えが遅れたこと、秋に行われる「草遊祭」に関連して、先輩に意見、知恵を求めつなかりが生まれていなかったことなどである。伝統的に行われてきた式典、各種行事の教育的な効果について、改めて認識する機会となった。

そこで2021年度は「保育総合教養」の講義コマを活用して、学内において、学年を越えたグループ編成による「保育グループワーク」としてディスカッションの機会を設けることとした。

都内で実施したことにより、外部の講師による主題講演が実施できるというめぐみも与えられた。今回は実習でお世話になっている恵泉バプテスト教会付属めぐみ幼稚園(中目黒)の松村のぞみ園長に「すべてのことは幼稚園の砂場で学んだ」と題して主題講演をしていただいた。

このプログラムは学内で実施するという制約の中ではあったが、「草遊祭」「クリスマス礼拝・祝会」などその後の学内のプログラムの状況を見て上下級生の一体感の醸成には効果があったと考えている。



ポスターセッションの一例

【草遊祭】

教室を使ったクラスごとのイベントは本年度も断念した。

代わって、講堂を使い、草苑幼稚園の園児を招いて、クラスごとのプログラムを実施した。各クラスのプログラムは成功し、園児との一体感が出来上がり、学生にとって貴重な体験となった。

園児からは、お礼の合唱も披露された。



【実習】

実習については、本校の学生が増加している一方で、コロナ化の影響を受けて実習を引き受けてくださる園、施設が少なくなるという状況の中で、実習センターを中核として、教職員も協力して完璧に実施できたことは特筆に値する。

なお、実習に際しては実習生全員が PCR 検査を受けて「陰性証明」を持ち、さらに実習巡回の教員も同様の準備をした。

【防災訓練並びに池袋防災館の体験】

集団で一斉に訪問することはできなかったが、分散して例年通り実施した。

なお、防災館側のプログラムも制約された中でのプログラムとなった。

【クリスマス関連プログラム】

前庭のツリーの点灯式、クリスマス礼拝、クリスマス祝会を実施した。

点灯式は通常時は草苑幼稚園の園児とともに実施してきたが、2020年度から専門学校学生のみで行うこととして、会場も講堂に移した。点灯の様子は中継によって講堂のスクリーンに映し出された。



【入学式・卒業式】

入学式、卒業式については、学生生活におけるそれぞれの行事の意味を考慮して、出席者を絞るなど制限を加えつつ、変則的であるが年間予定に従って実施した。

保護者の参加は、卒業式のみにした。

【免許状更新講習】

免許状更新講習の8月、12月の参加者数は次のとおりである。5月については中止した。

この講習による年間受講料収入は154万円であった。

なお、この講習については文科省が免許状更新講習を廃止したために、2022年度以降は実施しないこととしている。

2021年度免許状更新講習参加者実績

実施月	5月	8月	12月	年間計
参加人数	中止	151	69	220名

2.1.2 職業実践専門課程認定校としての活動

「職業実践専門課程認定校」は、専修学校の専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的として、平成25年8月30日に公布・施行され文部科学省の規程に沿って認定されるものである。本校は平成30年5月に認定されたが、「認定校」には「学校評価」ほかのことが義務付けられており、2020年度中の本校の実績は次のとおりである。

【学校評価】

「2021年度自己評価報告書」を取りまとめ、10月に東京都に提出した。私学財団から20万円の奨励金が交付された。

【教員の研修機会の拡大】

「研究紀要(第7巻)」を2021年度中の発行を予定していたが、若干作業が遅れている。

【「草苑 REPORT」の発行】

「草苑 REPORT」のVOL.12(春号)、13(秋号)の2巻を発行し、卒業生、教職員等へ配布した。

【教育課程検討委員会の開催】

教育課程検討委員会を3月10日に開催し、音楽教育の在り方などについて意見を頂いた。

2.1.3 学生募集活動

2021年度募集活動は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響により、主軸であるオープンキャンパスや学校説明会のイベントを人数制限や入校時の検温、手洗いの徹底など予防策を図った上で、リアル開催をしてきた。また、希望者にはZOOMを活用したオンライン説明会を実施し来校者のニーズに合わせハイブリットに対応してきた。このような状況の中、これまでの来校者数は、昨年に比べ増加した。

10月入学希望者は、3月～5月は問い合わせや学校見学希望者が例年になく数の申込みがあった。しかし、コロナ感染拡大に伴い一転、入学を先延ばしの意向となり例年同様の入学者数となった。

【目標】募集定員の達成

【施策】

- 高等学校訪問強化・・・ターゲット校訪問強化(地域別/期間別/私立校)
- 年間イベント開催強化・・・オープンキャンパス/学校説明会/入試説明会の体系化
- 入学前ピアノ講座開催
- 学生募集ツール「Web Marketing」を活用し、HP閲覧者へのポップアップ機能開始
- 草苑マスコットキャラクター:わかばちゃん公式アカウント設置
- HPリニューアルに向けてHP委員会発足

2.2 草苑幼稚園

2021年度は、2020年度に引き続き新教育要領に基づき対話的で主体的な保育の実施、保育の質の向上、預かり保育保護者との連携強化に重点に置き、事業を進めていった。

また、コロナ感染は収束することなく子どもたちの育ちに大きく影響していた。その中で、どのように子どもたちの育ちを保障するかを考え、教育した。

(1) 対話的保育

10の姿を念頭に保育計画を立てるが計画は柔軟に活用し、子どもたちが自ら考え、自ら活動できる環境を整える。対話的・主体的保育を目指し、子どもたちのミーティングを実施し、子どもたちを保育に参画させる。またその教育効果を保護者に実感してもらえるよう、クラスだより、保護者会などで積極的に発信していくことができた。特に年長組のスペシャルツデーは、子どもたちがミーティングをしながら、主体的に行ったものとなった。

(2) 保育の質の向上

保育の質の向上のため、研修会への参加、園内研修などで、保育者のスキルアップを図る。園内研修として、次のものを重点的に実施した。

① キリスト教理解のための研修

② 保育検討会(お互いの保育を検討する)

週に一回の週案会議、月の終わりに行う月案会議を定期的に行い、保育の振り返りを含め、全職員で各クラスの問題を共有し保育の質を上げる会議とした。

③ 発達についての研修会

専門学校講師の橋場隆先生(発達心理スーパーアドバイザー)が来園し保育を観察、その後保育者にフィードバックしていただき、発達が気になる子どもたちの個別の対応を学び、保育に活かすことができた。

④ zoomを使った研修会に積極的に参加。

(3) 定期預かり保育の保護者との連携強化

園と保護者が連携し、また保護者同士が情報交換できるように、仕組みを作った。

① 預かり保育の様子を記した「おたより」を、毎月発行した。

② クラス担任と、預かり保育担当者との連絡会議を定期的に行った。

2.3 コロナ感染症への対応

2.3.1 「コロナ感染症対応チーム」報告('2021)

一昨年(2020)年の7月以降、本校では「保育の専門学校教育は、対面でなければ授業にならない」という考えのもとに、感染防止策を徹底しながら、全面的に対面授業を実施してきた。

家庭内感染による陽性者は単発的に発生したが、学校活動に起因すると思われる感染は発生しなかった。

2021年度中に、「コロナ感染症対応チーム」の会議は、4回開催した。

- 第1回 4/28(水) 緊急事態宣言に伴い、4/29～5/1 迄 休講を決める。
幼稚園は、3才児のみ分散登園とし、通常保育を実施する。
第1回黙食強化週間(5/31～6/7)を決め、食事時の感染対策を強化する。
- 第2回 6/24(水) コロナワクチン職域接種実施を決める。
7/4 第1回目実施 8/7 第2回目実施
第2回黙食強化週間(7/5～7/12)を決め、更なる食事時の感染防止対策の強化
幼稚園では、3才児の黙食指導のための分散登園を終了した。
手洗い強化月間(9/16～10/15)を決め、入校前の手洗いの効果を伝え、感染防止を強化する。
教職員による「あらいぐま関所」を実施。
- 第3回 12/1(水) 第3回コロナワクチン職域接種実施を決める。(2022年度新入生を含めて、4/22に実施)
年末年始、冬のコロナ感染症対策の徹底を呼びかける。
- 第4回 1/17(水) 文科省のガイドラインにそって、学年閉鎖について決める。
2年ABC 1/18～1/23
2年2組、3組 1/24～1/30
1年生学年閉鎖 1/31～2/6

*「あらいぐま関所」について

手洗い強化指導を目的として、秋学期開始に際し実施した。

教職員があらいぐまの面を被り、手洗い場で学生に手洗いを徹底した。1日3回、2名の教職員が、あらいぐまの面を被り正面玄関の手洗い場に立った。

さらに、手洗い効果を伝達すると共に、今後、保育の現場で働く学生の主体性に繋げるために、コロナ対策をテーマにした授業へと繋げた。

*コロナ対策をテーマにした造形表現の授業について

造形表現の授業で、コロナ対策(手洗い)をテーマにした作品制作を学生が行った。28種類の作品が出来上がり、その表現内容は動画・絵本・塗り絵・カプセルトイ等、多種多様となった。保育者養成学校の学生としての主体性及び感性と創造性を含んだ表現力が見られたことは対面授業の大きな収穫であった。

2.3.2 学生・教職員の状況

2021年度中、年が明けて、1月の成人式出席者の中で感染者が増え、ガイドラインに沿って、学年閉鎖、学級閉鎖を実施するに至った。定期試験、実習も感染者対応により、大幅に期間が延びる結果となった。

3/13頃から感染報告が減り、3/16の感染者1名が最期になった。卒業式は、感染者0名で、コロナ禍の中では恵まれた卒業式となった。

2.4 宗教教育

本学園はキリスト教の精神を教育の理念としているが、キリスト教の基本部分については礼拝を担当して下さる牧師 5 人を中心とした「牧師会」と協議して進めている。

専門学校においては、2021 年度の主題聖句を「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」テサロニケの信徒への手紙— 5 章 16 節～18 節とし、毎日の礼拝や、行事などを通して、一人ひとりの理解を深めた。

日々の礼拝は担当する牧師が異なるが、春季、秋季の牧師会議で共通認識を持つことによって体系的な礼拝を持つことができた。それにより学生のキリスト教を理念とした教育・保育への理解は進んでいると実感している。

学生の礼拝出席率は高く、1 年生の皆勤者 26 名、精勤者 23 名、2 年生の皆勤者 1 名、精勤者 10 名となった。牧師会より、草苑オリジナルメダルが、皆勤者、精勤者に贈られた。

学生人数が多いため、講堂礼拝と教室礼拝を学年ごとに分けて、隔週で行っているが、教室への配信がうまくいかない事が多く、今年度中に実施される音響充実のための工事により、2022 年度の礼拝の充実には、期待している。

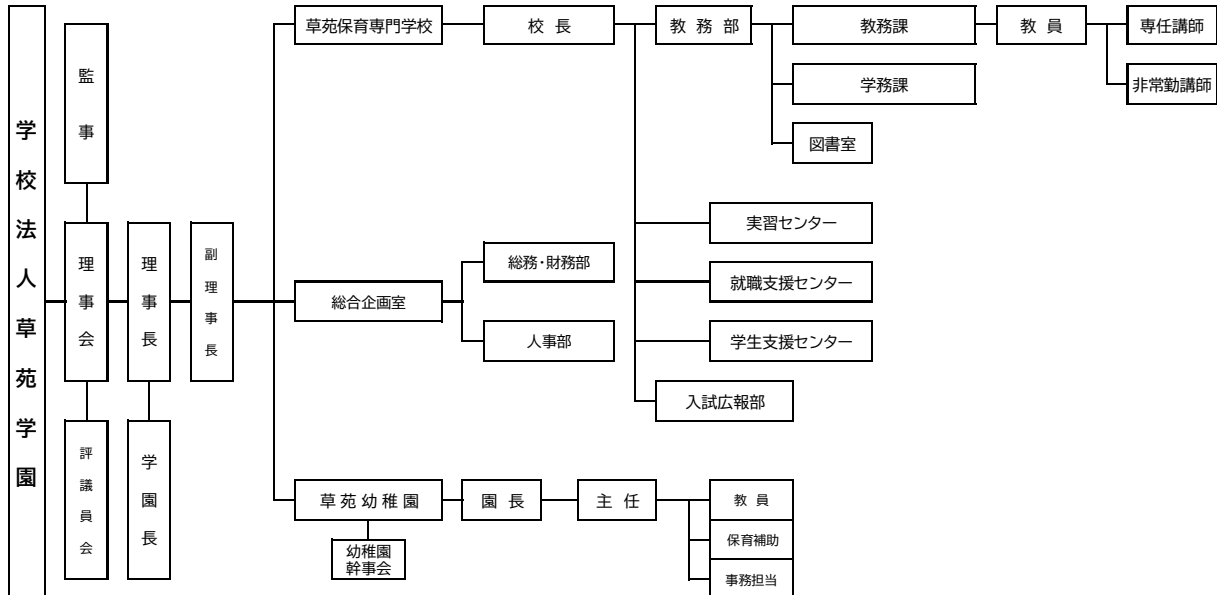
幼稚園では、毎日クラスで礼拝をし、月の聖句を年長児が暗唱した。また月 1 回、牧師先生を招き視聴覚教材を用いた聖話を聞いた。年長児は、当番が日々の食前の祈りや、行事でのお祈りを担当し、卒園式には全員で主の祈りを唱えた。

2.5 組織と運営

2.5.1 組織編成・教職員体制

2021年度は以下の「組織図」のように学園組織を編成した。

組織図



2.5.2 財政基盤強化

(1) 募集活動

2022年度、専門学校、幼稚園共に定員を充足した状態でスタートを切ることができた。

2021年度の専門学校募集活動は、ガイダンスやオープンキャンパスなどの広報機会において教職員協力体制をもって取り組めたことが成果につながった。一方、秋入学生は2017年度以降、入学者が定員の半分を満たせず、2021年秋も30名定員のところ8名であった。潜在する10月の入学希望者に直結した募集活動は難しく、ホームページやSNS閲覧を糸口とする受動的な募集に頼る結果となった。幼稚園の園児募集は未入園児クラス(さくらんぼクラス)や園庭開放で、草苑の恵まれた環境や、それを生かした保育を直接見てもらうことを意識した。さくらんぼクラスの回数自体を増やし、保護者や子どもが魅力を感じる内容の再構築に努めた。

(2) 学納金の納入

専門学校の半数以上の学生が何らかの支援制度に加え、分納制度を併用した。期日通りの納付を確実にするため、学生支援センター・担任教員・総務財務部の連携を図った。

修学支援制度の給付は家庭の所得や成績によって減免額が決定し、年度の途中の9月頃にも適格認定がされる。それにより、本人負担額が変動するので、各々の学生に対し、きめ細かい対応が求められる。学生の学校生活を守るため、時には保護者説明も丁寧に行いながら、確実なやり取りによる支援が必要であった。

2021年度、「私立専修学校授業料等減免費用負担金」として東京都から交付を受けた額は11,450,800円であった。

今年度は学納金納入において連絡や届け出なく、期日までに納付額を納めない、という学生はいなかった。日々の指導や、取り組みで学生自身の納付意識が高まることを再認識した。

2.5.3 法人の体制

月2回の幹部会で情報共有の上で、各部署からの懸案について部署長で協議を行い、方針を決定した。懸案事項によっては職員会議に校長が諮問するなど、一度それぞれの部署に持ち帰り、更に協議を深め、学生、園児にとっての最善が尽くせるように努めた。幹部会で決議された内容は教職員に直ちに共有し、学園全体が共通認識を持って日々の教育活動を行えた。

2.6 寄付募集

2019年に「草苑学園教育資金」を設定して「5年間で5千万円」を目標としたが、実際には2018年度から組織的な寄付募集に取り組んでおり、その実績は下表のとおりである。(下表は寄付を受け入れた年度で集計。企業からの寄付金は、受け入れた後でいったん日本私立学校振興・共済事業団に寄付し、事業団から学園に配布された時点で収入に計上するので、決算の金額と一致しない。)

		幼稚園	専門学校	現教職員	旧教職員	企業、一般	計
2018年度	件数	15				31	46
	金額	3,675,000				20,310,000	23,985,000
2019年度	件数	23	72	11	0	8	114
	金額	317,000	711,000	2,632,500	0	387,421	4,047,921
2020年度	件数	19	12	16	2	4	53
	金額	121,308	153,000	2,937,000	22,000	10,550,000	13,783,308
2021年度	件数	23	45	22	3	6	99
	金額	307,000	546,700	11,755,000	18,000	9,780,000	22,406,700
							64,222,929

個人からの寄付は、『草苑レポート』を通じた呼びかけに幼稚園・専門学校とも卒業生を中心に積極的な反応がある。法人からは、毎年大口の寄付をいただいている。このように、個人・法人の双方からの積極的な寄付があることは感謝である。

2.7 施設・設備

学園の施設・設備については、「安全」と「施設の長期維持」を優先しつつ、教育環境整備にもバランス良く投資できるよう、向こう3年間の実施計画を策定して進めた。2021年度に実施した主な案件は以下のとおりである。

2.7.1 専門学校

(1)安全・施設維持のため

- 高電圧設備(PAS)の交換。
- 消火用ホース、消火器、感知器交換。
- 屋外監視カメラを交換。

(2) 学生増加への対応

- IT 教室を教室 4 から 3 階大教室に変更して、授業用 PC を倍増。併せて 3 階大教室の床・壁面を改修。
- 1 階男子トイレを女子トイレに変更。

(3) 教育環境の整備

- 校内放送設備を全面更新。
- カフェテリアの壁紙貼り替え。
- 講堂に旧青山学院礼拝堂からオルガンを搬入設置。
- 総合実習室の空調機を交換。

2.7.2 幼稚園

(1)安全・施設維持のため

- 火災感知器、誘導等バッテリー交換。
- 園舎正面スポットライト交換。

(2) 教育環境の整備

- 砂場にパーゴラを設置。

3. 財務の概要

3.1 貸借対照表の概要

〔千円〕

	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	増減
固定資産	1,499,748	1,483,171	△16,577
うち有形固定資産	1,498,392	1,481,852	△16,540
流動資産	88,681	134,450	45,768
資産の部合計	1,588,430	1,617,621	29,191
固定負債	1,099,002	1,049,302	△49,700
流動負債	165,237	187,601	22,364
基本金	765,594	806,188	40,595
繰越消費支出超過額	△441,403	△425,470	15,933
負債及び純資産の部合計	1,588,430	1,617,621	29,191

3.2 資金収支計算書の概要

〔千円〕

	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度
収入総額(=支出総額)	711,630	789,955
うち翌年度繰越支払資金	63,686	103,480

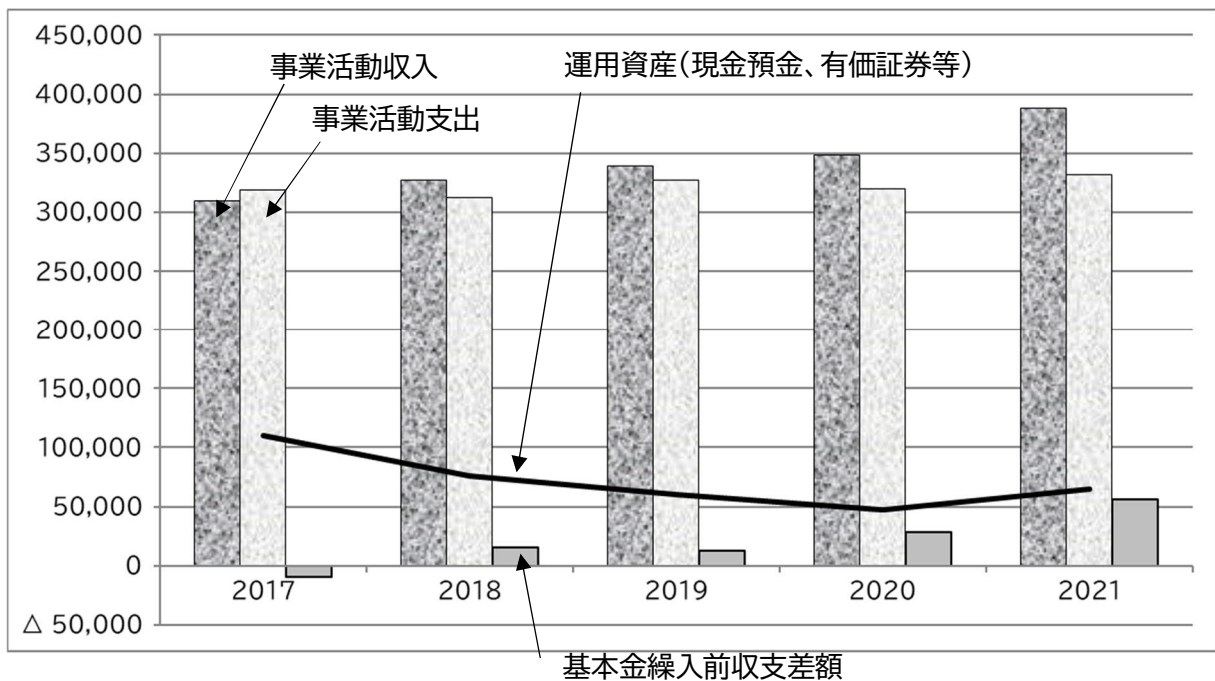
3.3 事業活動収支計算書の概要

〔千円〕

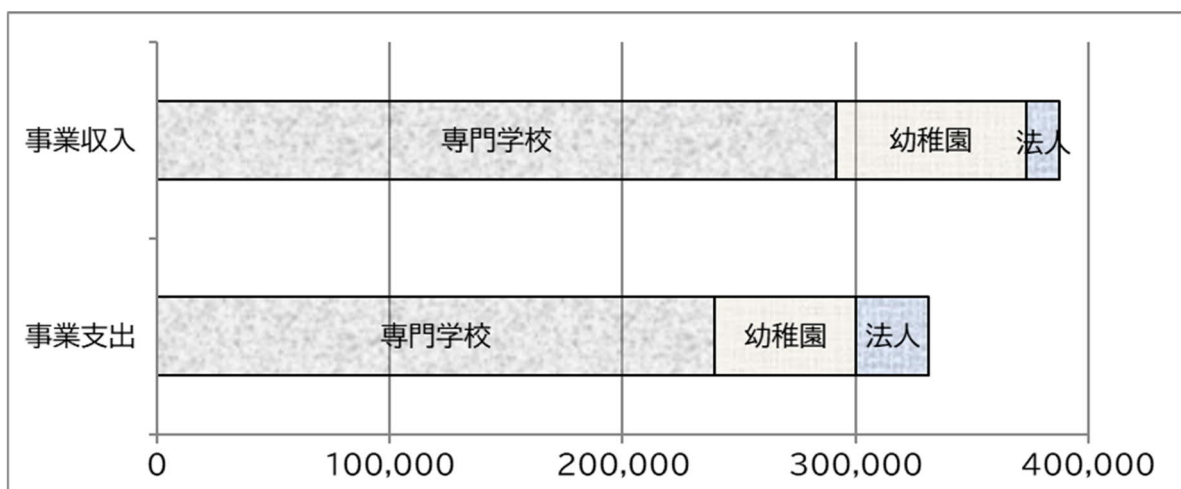
		法人	幼稚園	専門学校	全体
教育活動事業収支	収入	14,089	81,879	291,635	387,603
	支出	16,206	61,017	239,330	316,553
	差額	△2,117	20,862	52,305	71,050
教育活動事業外収支	収入	31	0	0	31
	支出	14,661	0	0	14,661
	差額	△14,630	0	0	△14,630

特別収支	収入	108	0	0	108
	支出	0	0	0	0
	差額	108	0	0	108
事業活動収支	収入	14,227	81,879	291,635	387,741
	支出	30,866	61,016	239,330	331,213
	差額	△16,639	20,862	52,305	56,528

3.4 5年間推移

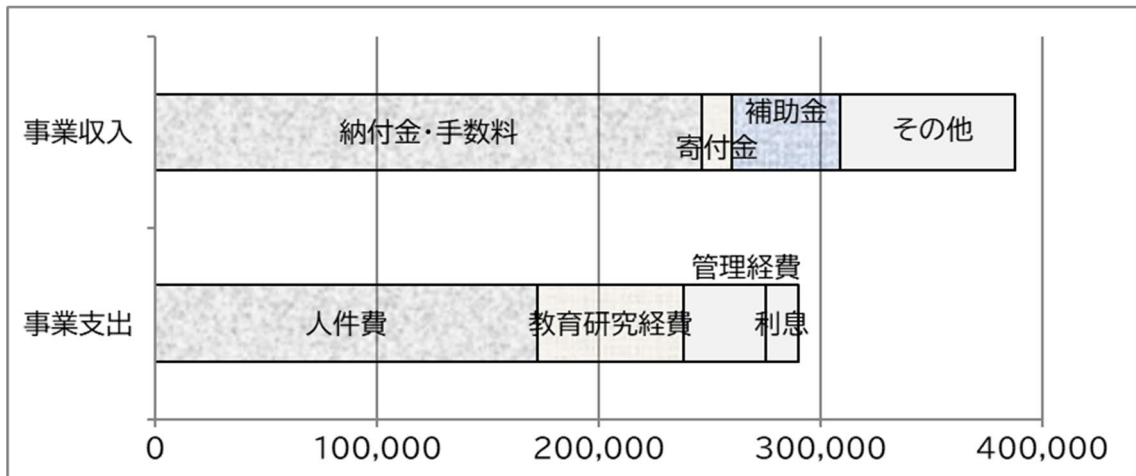


3.5 収支の部門別内訳

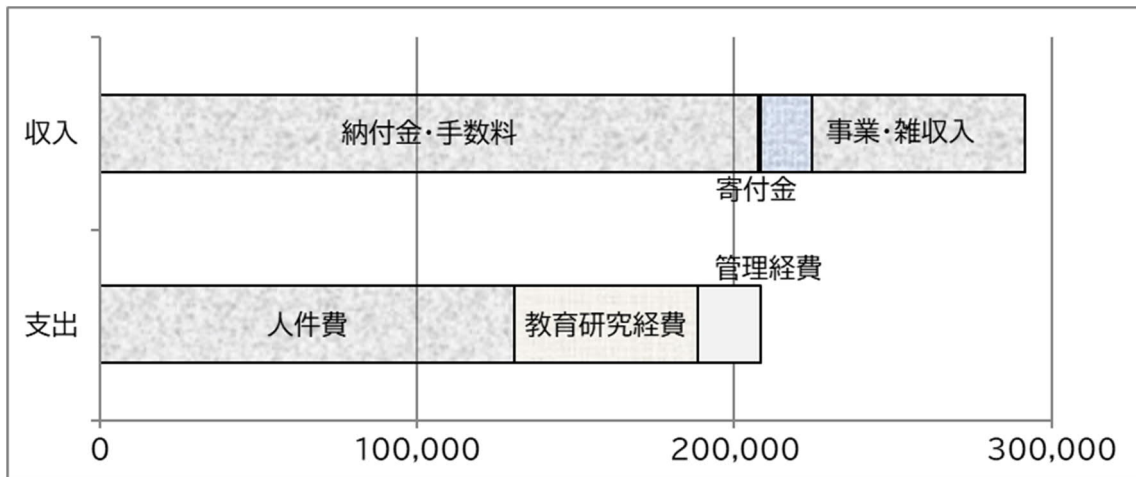


3.6 学校別収支内訳

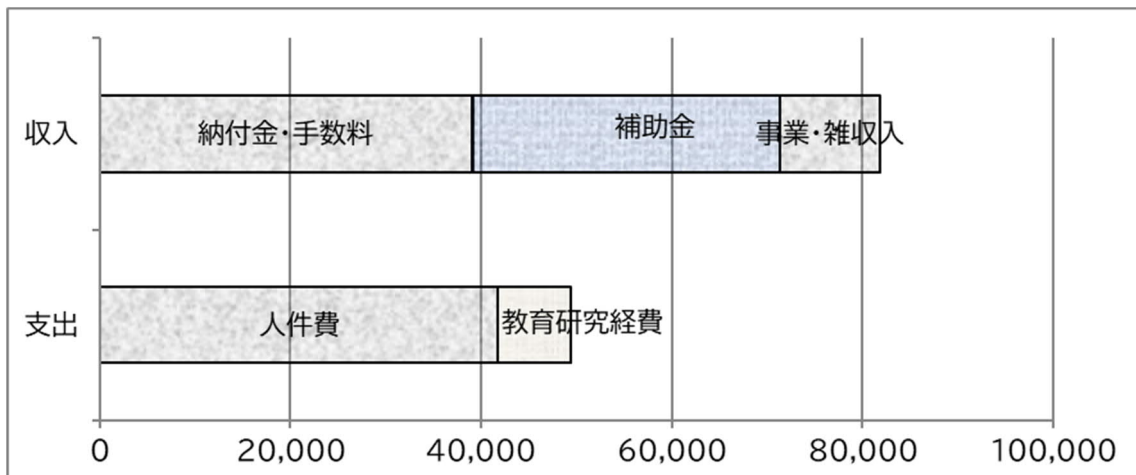
a) 法人全体の収支内訳



b) 専門学校の収支内訳



c) 幼稚園の収支内訳



3.7 主な財務比率

3.7.1 貸借対照表関係比率

比率名	定義	2017 (H29) 年度	2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	△高いほど良い ▼低いほど良い	
							↓	説明
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	16.0%	17.4%	18.6%	20.4%	23.5%	△	純資産の充実度。
繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	-21.9%	-24.2%	-26.7%	-27.8%	-26.3%	△	各年度の消費収支差額の累計。
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	590.9%	547.2%	515.9%	462.6%	389.6%	▼	固定資産の自己資本に対する割合。
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	106.4%	104.7%	105.6%	105.4%	103.7%	▼	短期返済不要の長期的資金の割合。
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	94.5%	95.2%	95.6%	94.3%	91.6%	▼	資産のうち、換金性のない校地・校舎・図書等の割合。
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	48.9%	52.5%	45.9%	53.7%	71.7%	△	1年以内に償還すべき負債に対する返済余力。
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	-3.9年	-3.8年	-3.6年	-3.4年	-3.1年	△	支出規模から見た資金蓄積の余裕。
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	85.4%	71.2%	51.0%	63.7%	91.7%	△	100%未満は翌年度の事業活動収入の先食い。
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	72.9%	73.5%	72.1%	69.2%	64.9%	▼	長期にわたって償還すべき負債が多いことを示す。
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	84.0%	82.6%	81.4%	79.6%	76.5%	▼	負債＋純資産のうち他人資本の割合。
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	525.0%	474.5%	439.0%	390.0%	324.9%	▼	他人資金が純資産を上回っていないか。

※運用資産＝流動資産＋特定資産＋有価証券
外部負債＝総負債－(退職給与引当金＋前受金)

3.7.2 収支計算書関係比率

比率名	定義	2017 (H29) 年度	2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	△高いほど良い ▼低いほど良い	
							↓	説明
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-2.9%	4.6%	3.6%	8.1%	14.6%	△	学校の収支の基本的な指標。
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-2.9%	4.6%	3.6%	8.1%	14.5%	△	特別収支を考慮しない収支差額比率。
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	12.3%	11.7%	10.8%	9.9%	8.8%	△	減価償却額は実際の資金支出を伴わない。
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	81.9%	76.6%	75.5%	82.2%	79.1%	△	専門学校の受託事業費も納付金に加えた。
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.7%	4.2%	4.2%	4.0%	3.5%	△	私立学校の支援者獲得努力の指標。
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	10.6%	9.7%	11.8%	9.4%	12.6%	△	大部分は幼稚園の補助金。
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	54.8%	52.1%	51.5%	46.6%	44.5%	▼	学校の最大の支出要素であるとともに経営資源。
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	66.8%	67.9%	68.2%	56.7%	56.3%	▼	専門学校の受託事業費も納付金に加えた。
経費比率	$\frac{\text{教研経費+管理経費}}{\text{経常収入}}$	30.1%	26.7%	29.3%	30.9%	26.5%	△	教育水準維持の努力の指標。
借入金等利息比率	$\frac{\text{支払利息}}{\text{経常収入}}$	5.6%	5.4%	4.9%	4.8%	4.4%	▼	収入に対する利払いの比率。

※学生生徒等納付金には専門学校の受託収入も加算した。